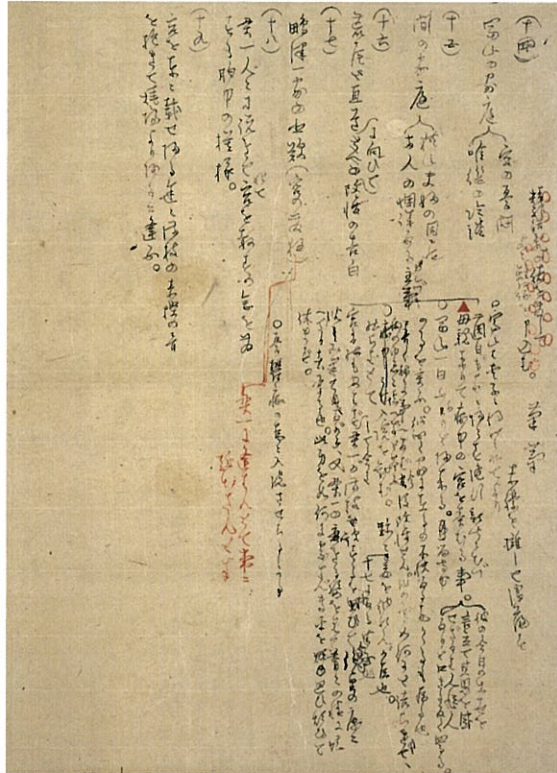


# やまとの名品 天理図書館



## 金色夜叉腹案覚書

尾崎紅葉自筆 1幅

明治34~35年(1901~1902)頃

縦33.3cm 横24cm

『金色夜叉』は、明治の文豪尾崎紅葉（慶応三―明治三十六）の未完の新聞小説。明治三十年一月―三十五年五月に亘り『読売新聞』に断続的に連載された。

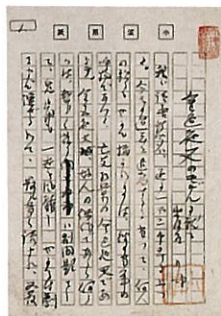
高等中学に通う主人公貫一は、将来を囑望され、両親と死別後世話になっていた鳴沢家の娘宮との結婚が約束されていた。しかし正月のカルタ会で、美貌の宮は、指に大きな金剛石をはめた大富豪富山唯継に見初められてしまう。貫一との約束を反故にして財力ある唯継との結婚を薦める両親。宮は悩んだ末、唯継の元に嫁ぐ事を決めるが…。

前篇最終章、一月十七日熱海海岸での「来年の今月今夜にな

つたらば、僕の涙で必ず月は曇らして見せるから…」の台詞と、学生服に外套姿の貫一が宮を足蹴にする別れのシーンは、演劇、映画、ドラマでも度々演じられよく知られている。

掲出は「続々金色夜叉続篇」執筆の用意に取りかかった時期の構想腹案の覚書で、各章のあらすじと、それをつなぐ事件や会話が記されている。後半部分には、病気の為中断した未稿部分の展開も記され、紅葉が貫一と宮に用意していた結末を垣間見ることができ、大変興味深い。

又『金色夜叉』には英国の女流作家の小説がベースにあるそうだが、挿図は当時貫一のモデル



「金色夜叉のモデルに就て」

ルではないかと噂されていた巖谷小波が、明治四十三年の『読売新聞』一万二千号の記念に当たりその世評に答えたもの。結局この原稿は新聞には掲載されなかったが、文中、当時紅葉からモデルにしたと言う話はなかったが、自分には幼友達との失恋事件があったことは事実で、それが小説の材料ともなったとすれば喜ばしいと述べている。

（天理図書館 岡本千佳）

天理図書館のお知らせ Tel: 0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>

◆平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）

○10月の休館日: 18日・26日・31日

（本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）